

滝上の人

〜照千一隅〜

今回は、滝西地区にある本信 に入スポットをあてていきます。

寺(信宗大谷派)第六代住職 渡 渡辺さんは、昭和27年、滝西生
辺(仁海(わたなべじんかい)さん まれの現在69才です。渡辺さん

滝西 渡辺 仁海さん

は、高校まで滝上、その後、進学

して教員の道に。教員を退職し

た後、現在の本信寺の住職に就

くこととなります。渡辺さんは

住職をされているほかに教育委

員をはじめ多数の町や団体及び

寺院関係の役職に就かれていま

す。取材に訪問した際にも明日

は、ここで寺院関係の役員会を

するとのことと、とても忙しい

様子でした。「お忙しくないです

か？」と尋ねると、「先輩の住職

から『住職とは別の読み方をす

ると十の職を持つ人を住職とい

う。教師を退職した際には色々

な役職を引き受けなさい』と言

われたこともあり引き受けてい

る。」とのことでした。

高校生の時の話を伺うと、昔

は滝西に診療所、お店、旅館など

もあって今よりも活気がありま

した。昔は、まだ自家用車があま

り普及していないことから、周

りの学生は、滝西から市街地の

高校まで通うため、オートバイ

に乗って通っていました。道路は

今のよう舗装されていなく、

砂利道。オートバイの横を大型

自動車を通ると高校に着いた時

には黒い学生服が真っ白になっ

ていた人もいましたと当時の様

子を教えていただきました。

教員の職についての理由を伺う

と、生まれがお寺のため小学生

の時からお経を教えられていま

したが、就職する年になり違う

職を経験してみたいとの思い、

また、違う町に行ってみたいと

の思いが重なり教員という道を

選びました。

最初は鉦路に近い弟子屈町、

次に紋別市、湧別町、最後は母校

である滝上高校で36年間の教師

生活を終えることとなります。

教師時代のエピソードを聞くと

紋別北高校時代(現在の紋別高

校)の時、学園祭に使うと夜に

カプトムシ、クワガタを生徒と一

緒に滝西へ採りにきた後、紋別

市に帰る途中で虫が容器から出

てきて、車の中で飛び交い大騒

ぎになったことがあって大変

だったと思いを教えてくれま

した。

今まで卒業生を見送ったのは

7千人ぐらいたとのことと、「卒

業生の顔を全部覚えるのは無理

ですよ？」との問いには私は

覚えている方じゃないかな。さ

すがに見かけたただけでは思い出

せないけど、話しかけられたら、

その生徒がどんな人だったかは

思い出せるとのことと、この先
生の生徒だった人は幸せだなと
思ったところとです。最後にご自身が大切にしてい
る言葉はありますかとの問いに
は、

「照千一隅」

(しょうせんいちぐう)

との回答。

「照千一隅とは、一隅を照らす
人は千を照らす人と等しいとの
意味で、例えば田舎に行つて根
をしっかりと張つて生きていくこ
との方が、都会に行つて自分が
ネオンになって、いい気になるよ
りずっと価値があることなので
す。」と教えていただきました。地域の環境整備にも携わつて
いるとの話も聞いていたので、こ
の言葉を本当に実践しているの
だと感じました。今後、たまには体を休めて、
元気に活躍していただきたいと
思います。